

沼津市幼保小連携の手引き

～スムーズな学びの接続のために～



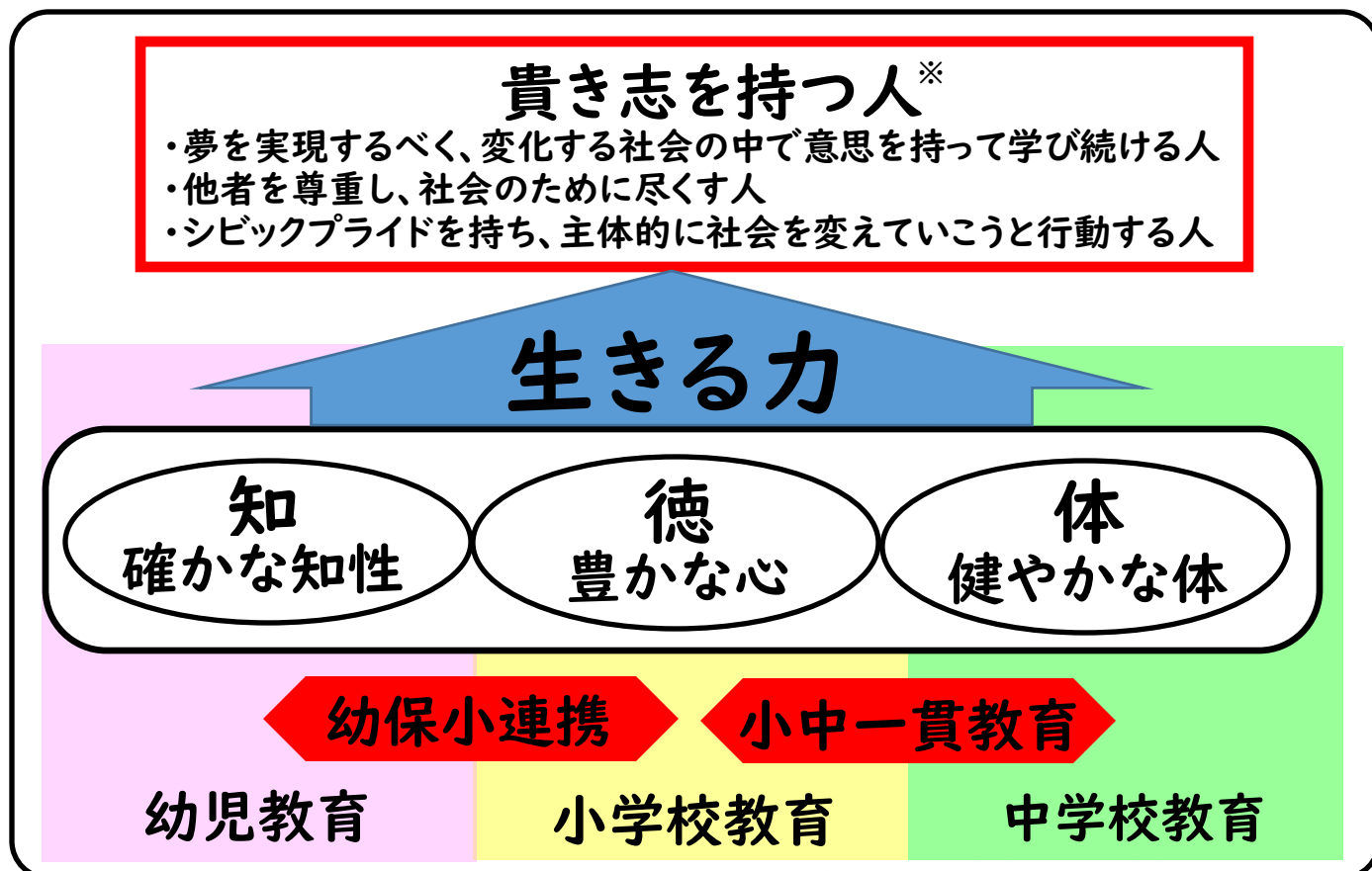
愛言葉戦隊 沼津っ子レンジャー

令和4年3月

沼津市教育委員会・沼津市幼保小連携協議会

「^{たか}貴き志を持つ人」の育成に向けて

- ① 系統性・連続性のある学びを通して、子供たちの「生きる力」を育んでいきましょう。



※令和3年度を始期とする沼津市教育基本構想では、「貴き志を持つ人」の育成を目指しています。

- ② 幼保小連携を、3つの視点で推進していきましょう。

①子供の成長を共に支えていきましょう

幼保小が共通した目標を持って保育・教育を進めていくことで、各園、各校がつながりを持って子供たちの成長を支えていくことができます。

⇒「1 沼津市幼保小連携 目指す子供像」

②積極的な連携を図っていきましょう

幼児教育と小学校教育の段差を滑らかにし、子供たちがスムーズに小学校生活をスタートできるようにするために、教職員の連携や子供の交流が大切です。

⇒「2 幼保小連携の取組」

③子供の学びをつなげていきましょう

幼保小の教職員が互いの保育・教育を理解し合い、接続期の子供の育ちや学びを共有することで、学校段階間での連続性・一貫性をより一層意識した保育・教育につながります。

⇒「3 沼津市 幼保小接続期モデルカリキュラム」

③ 連携を進める上での問題点と課題

- ・子供の交流や教職員の連携の必要性を感じているが、相互参観や研修会を開催する時間の確保が難しい。
- ・1つの園から子供が複数の小学校に就学する、或いは1つの学校に複数の園から子供が就学することにより、全ての園と小学校とで交流や連携をすることができない。
- ・小学校は教職員の異動や担任の変更があるため、年度を跨いでの情報共有が難しい。
- ・幼保から小学校への引継ぎはしているが、就学後の子供たちの様子を幼保が知る機会が少ない。
- ・幼保小で目指す子供像を共有し、保護者も含めて協力していくことが必要である。
- ・鉛筆の正しい持ち方や箸の使い方等を幼保小で共有することや、それぞれの園と学校の約束事等を相互に理解しておくことが必要である。
- ・幼保では、スタートカリキュラムの理解を進めていく必要がある。

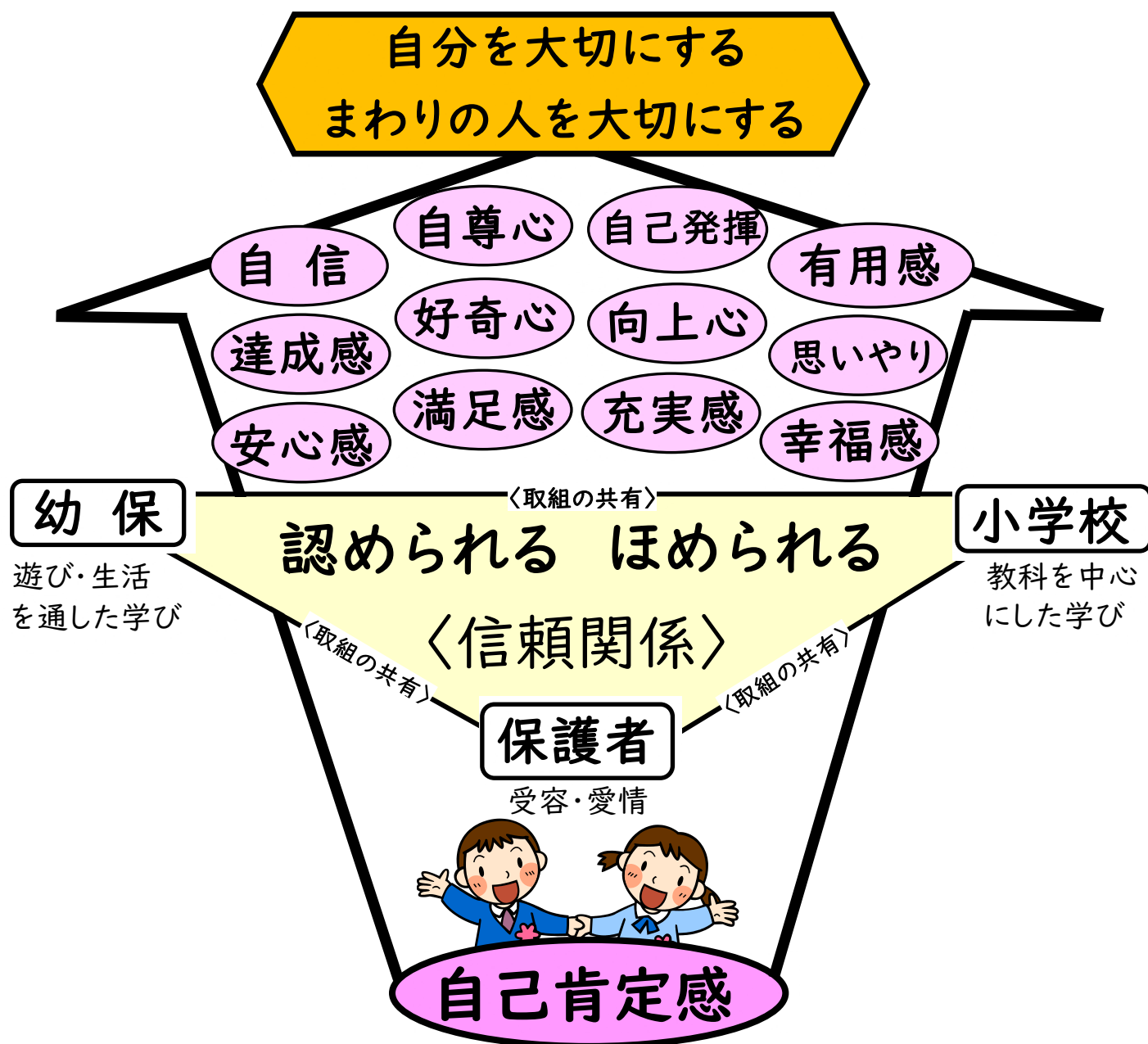
(R3.7 幼保小連携に関わるアンケート調査より)

※上記の問題点や課題を踏まえ、できることから取り組んでいきましょう。

☆この「沼津市幼保小連携の手引き」は、今後も幼保小の教職員の皆さんの御意見をいただきながら、よりよいものに更新していきます。

Ⅰ 沼津市幼保小連携 目指す子供像

「自己肯定感が高まり、自分もまわりの人も大切にできる子」



- ・自己肯定感が高まる経験を積み重ねることは、どの発達段階においても学びに向かう原動力となり、子供たちが生きていくための土台となります。
- ・自己肯定感とは、安心できる人間関係の中で、認められ、ほめられるような関わりにより育まれるものです。
- ・生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期から学童期に、自己肯定感を育んでいくことが大切です。

※各園・各校での取組を共有し、保護者とも連携を図っていきましょう。

2 幼保小連携の取組

(1) 教職員の連携

- ・スタートカリキュラム(小学校入学当初の指導計画)やアプローチカリキュラム(5歳児後半の指導計画)の共有
- ・保育や授業、行事の相互参観、合同研修会
- ・就学前、就学後の子供の学びの様子や成長等の情報交換 等

(2) 子供の交流

- ・年長児の小学校見学や学校生活体験
- ・小学生による年長児への学校生活の紹介や学校案内
- ・年長児と小学生の遊びや行事を通じた交流活動 等

(3) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点とした保育・教育

幼児教育と小学校教育の円滑な接続のためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として、保育者と小学校の教師が、互いの教育や幼児期から児童期における発達の流れを理解し合い、子供の育ちや学びを共有することが大切です。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- | | | |
|---------------|------------|-----------------------|
| ①健康な心と体 | ⑤社会生活との関わり | ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| ②自立心 | ⑥思考力の芽生え | |
| ③協同性 | ⑦自然との関わり | ⑨言葉による伝え合い |
| ④道徳性・規範意識の芽生え | ・生命尊重 | ⑩豊かな感性と表現 |

※詳細は(別添資料)参照

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は到達目標ではなく、子供の成長の方向性を示したものであり、これまで育ってきた姿、これから育っていく姿と捉えることができます。そして、これらは個別に取り出されて指導されるものではなく、一人一人の発達の特性に応じて育ってくる姿です。したがって、全ての子供に同じように見られるものではないことに留意する必要があります。

○幼保の保育者には…

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置きながら、一人一人の発達に必要な体験が得られるように環境を構成したり、必要な援助を行ったりすることが求められます。

○小学校の教員には…

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することにより、
子供が自己を発揮しながら主体的に学べるようにすることが求められます。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、
スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの見直しをしてみましょう。

(静岡県版幼小接続期モデルカリキュラム「じぶんでできた!いっしょにやろう!」参照)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

①健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

②自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

③協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

④道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

⑤社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

⑥思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

⑦自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

⑨言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

⑩豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

沼津市幼保小連携	目指す子供像「自己肯定感が高まり、自分もまわりの人も大切にできる子」
----------	------------------------------------

□ …「健康」に関わること □ …「人間関係」に関わること □ …「環境」に関わること □ …「言葉」に関わること □ …「表現」に関わること